

富士電機（6504）企業分析レポート

【直近5年の業績推移】

決算期	売上高（百万円）	営業益（百万円）	経常益（百万円）	EPS（円）	配当金（円）	寸評
2022.03	910,226	74,835	79,297	410		最高益級
2023.03	1,009,447	88,882	87,811	429		増収増益
2024.03	1,103,214	106,066	107,822	527		利益拡大
2025.03	1,123,407	117,646	118,759	642		最高益更新
2026.03（予）	1,185,000	128,500	128,000	603		増収継続

【財務・キャッシュフロー概要】

決算期	営業CF（百万円）	投資CF（百万円）	財務CF（百万円）	現金残高（百万円）	自己資本比率（%）
2023.03	116,163	-49,498	-77,193	84,165	43.8
2024.03	84,858	-62,418	-45,867	65,543	47.4
2025.03	144,920	-63,384	-86,246	62,675	52.7

【財務コメント】 営業CFは年度で変動しつつも、2025.03は大きく拡大している。投資CFは継続的なマイナスで、成長投資と維持投資の継続を示す。自己資本比率は上昇基調で財務体質は改善している。

【会社概要】

富士電機はパワー半導体、インバータ、電源機器、配電・受変電設備など電力・エネルギー領域に強みを持つ電気機器メーカーである。産業インフラ向けの需要を基盤に、脱炭素と電動化の投資拡大を追い風に事業を伸ばしている。

【歴史】

戦前から電機分野で事業を展開し、重電・電源・駆動制御の技術を積み上げてきた。近年は収益性の高いパワー半導体とエネルギー関連へ集中し、設備投資と生産能力増強を進めながら利益体質の強化を図っている。

【立ち位置】

電動化・省エネの要となるパワー半導体と電源・駆動制御は、製造業の設備更新やインフラ投資と連動しやすい。大型総合電機と比べて領域が絞られている分、需要テーマがはまる局面では成長が見えやすい立ち位置にある。

【見解】

中長期的には、脱炭素投資、EV化、工場の省エネ需要を背景に、パワー半導体と電源・駆動制御の拡大が期待できる企業である。一方で、投資負担と景気循環の影響を受けやすく、設備投資の減速局面では利益成長が鈍化しやすい点には注意が必要である。

【株価・市場情報】(2026年1月8日)

株価(終値・円)	PER(倍)	PBR(倍)	配当利回り(%)	信用倍率(倍)	時価総額(億円)
11,950					

【同業他社比較】

銘柄名	株価(円)	PER(倍)	PBR(倍)	時価総額(億円)	特徴
日立製作所	5,088	30.6	3.75	230,000	インフラ・IT主導、海外注力
三菱電機	4,711	26.05	2.38	99,600	防衛・宇宙、FA、電力・デバイス
パナソニックHD	2,008	18.03	0.98	49,300	家電・電池、構造改革継続
オムロン	3,987	27.03	1.01	8,222	制御機器、車載・ヘルスケア
明電舎	5,790	15.92	1.84	2,636	電力・水処理、電鉄、EV化

【投資成功シナリオ】

需要テーマが強い局面で、パワー半導体の供給制約が緩和しつつ単価と稼働率が高水準を維持する。設備投資の回収が進み営業利益率が底上げされ、増益トレンドが継続することで市場評価が安定成長株として定着する展開。

【投資失敗シナリオ】

景気減速や投資サイクル後退で産業インフラ需要が鈍化し、増産投資の固定費が利益を圧迫する。原材料・エネルギーコストの上振れも重なると利益率が低下し、業績の伸びが市場期待に届かず株価が調整する展開。

【メモ】

2026.03予は増収だがEPSは前年から低下見込み。投資負担と採算、受注の質の確認が最優先。次に見る論点はパワー半導体の増産進捗と価格・稼働率。